



## 世界経済のトレンド丸解り！今週の注目レポート



このコーナーでは、フィナンシャル・インテリジェンス部に配属された新人のルミが「世界経済の今・そしてこれから」を把握するために是非読んでおきたい、今週の重要レポート・ニュース記事を紹介します。（原則月曜日更新）

「ニッポン！！ちゃちゃちゃ、ニッポン！！ちゃちゃちゃ」  
「朝からなんなんだ、キミは！ワールドカップは終わったばかりだろ？」  
「部長、聞いてくださいー！新生アギーレジャパンに選出された、あのイケメン・インテリ現役大学生の武藤嘉紀くんが弟の友達だったんですよ！！！」  
「何っ？？キミに弟がいたなんて！しかも武藤君の友達だと！？」  
「ルミ、完全に彼のファンになってしまいました。今度弟に頼んで、会わせてもらうんです。きゃー！！」（顔が赤くなる）  
「それは良いな。ぜひサインをもらってきてくれ、槇原君」  
「頑張っておしゃれしていかなきゃ、そしてLINEのアカウントもゲットしちゃって、このまま付き合っちゃったら…」  
「…」  
「将来は、イケメンサッカー選手のお嫁さんになってしまうのね、わたし」  
「…」  
「そして彼との子供ができて、その子もサッカー選手になるのね！！」  
「…」  
「あー、もう仕事なんてしなくていいや！私、サッカー選手のお嫁さんだもん！」  
「…ところで、槇原君、今週も課題はやってきたかね？」  
「広木部長、もちろんです！私のハートは彼のことでいっぱいだけど、精一杯やりましたよ！確認お願いしまーす！」



## 今週の注目レポート・重要ニュース

## ■経済指標や重要イベントなど

## 【1.米国】

先週の米国市場は上昇しました。ダウ平均は取引時間中に17,100ドルを超えて史上最高値を上回るような局面では利益確定に押され上値が伸び悩む場面もみられました。しかし、週末にダウ平均は終値ベースの史上最高値まで後1ドル程度まで迫っています。また、S&P500株価指数は週末に史上最高値を更新して取引を終えています。



### 1-1. ISM 製造業景況感指数

2日に発表された8月の米サプライマネジメント協会（ISM）製造業景況感指数は59.0と前月の57.1から改善し市場予想を上回り2011年3月以来の高水準となりました。なかでも新規受注が66.7と2004年4月以来の高水準となっています。

### 1-2. 米自動車販売

3日に発表された8月の米自動車販売は年率換算で1735万台と8年7カ月ぶりの水準となり、8月としては11年ぶりの高水準で市場予想を上回りました。

### 1-3. ISM 製造業景況感指数

4日に発表された8月のISM非製造業景況感指数は59.6と市場予想を上回り2005年8月以来の高水準となっています。

### 1-4. 雇用統計

8月の米雇用統計で非農業部門の雇用者数は前月に比べ14万2000人増となり労働市場の回復の目安といわれる20万人を7カ月ぶりに割り込み、市場予想を大きく下回って8カ月ぶりの低水準となりました。また、7月は速報値の20万9000人から21万2000人に上方修正され、6月は29万8000人から26万7000人に下方修正されています。失業率は6.1%で前月より0.1ポイント低下しています。

### 1-5. アップルの新製品発表会

9日にはアップル（AAPL）の新製品発表会が予定されています。新しいiPhone「iPhone6」が発表されるとみられます。

### 1-6. 米小売り売上高

12日には8月の米小売り売上高が発表されます。7月は前月比で変わらずで増加を見込んでいた市場予想を下回りました。8月は好調な自動車販売が全体を押し上げ7月の横ばいからの改善が見込まれています。

詳細は「米国株 Market Pick Up 今週の注目ポイント」をご覧ください。

## 【2.欧州】

ウクライナ政府と親ロシア派武装勢力の停戦合意や、ECBの追加の金融緩和を受けて欧州の主要な株式市場は上昇しました。特にECBの追加の金融緩和が発表された4日の主要指数は大きく上昇し、ドイツのDAX指数は先週一週間で3%近く上昇しました。



## 2-1. ECB 理事会

欧州中央銀行（ECB）は4日の定例理事会で追加の金融緩和に踏み切りました。政策金利を0.1%下げ、過去最低の0.05%とするほか、銀行の融資債権を証券化した資産担保証券（ABS）の買い入れを10月から実施することを決めました。また、域内の銀行がECBに余剰資金を預け入れた場合に手数料を課すマイナス金利について0.2%とし、従来より0.1%拡げることも決めています。

### 【3.日本】

先週の日本市場は上昇しました。日経平均は火曜日に円安や塩崎氏の厚生労働大臣就任報道などを好感して200円近く上昇し7月30日の戻り高値を上回ると、水曜日には15,800円台を付ける場面もありました。しかし、週後半は重要なイベントを控え様子見となりやすいなか利益確定の売りに押され上値は伸び悩みました。TOPIXは取引時間中に一時、1月8日の年初来高値を上回る場面もみられました。

## 3-1. 内閣改造

2012年12月の第2次安倍内閣の発足以来初めての内閣改造が行われました。麻生太郎副総理・財務相や菅義偉官房長官、甘利明経済財政・再生相らを留任させる一方、定員18人のうち12人を入れ替え、女性閣僚は過去最多に並ぶ5人となりました。株式市場では、塩崎氏の厚生労働大臣就任との報道でGPIFの改革期待が高まりました。

## 3-2. 金融政策決定会合

今回の会合では金融政策の変更はありませんでした。日銀の黒田東彦総裁は金融政策決定会合後の記者会見で、成長率が「昨年4月の予想より若干下振れている」としたものの、一方で2%の物価目標を変える必要もつもりもないことを改めて強調しました。

## 3-3. メジャーSQ

12日は株価指数先物とオプション9月物の特別清算指数（SQ）算出日で、3カ月に1度のメジャーSQです。

### 【4.中国】

先週の上海総合指数は5日間とも上昇し6日続伸となるなか、4日連続で年初来高値を更新しました。1日に発表された8月の中国製造業購買担当者景気指数（PMI）は悪化したものの、中国政府による景気刺激策への期待から上海総合指数は上昇しました。また、3日に発表された8月の非製造業購買担当者景気指数（PMI）が改善したことや、10月に始まる香港市場との株式の相互取引を前にした資金流入期待もあって4日には約1年3カ月ぶりに上海総合指数が2,300ポイントを回復しています。

詳細は「中国株 Market Pick Up 今週の注目ポイント」をご覧ください。



詳細レポートは以下をご参照ください。

- [日本][チーフ・ストラテジスト広木隆の「ストラテジーレポート」](#)
- [日本][シニア・マーケットアナリスト金山敏之の「投資のヒント」](#)
- [日本][フィスコの「週刊マーケット展望」\(ログイン後限定レポート\)](#)
- [日本][J.P.Morgan \(J.P.モルガン\) 社や TIW 社の「アナリストレポート」\(ログイン後限定レポート\)](#)
- [米国][米国株 Market Pick Up 今週の注目ポイント](#)
- [中国][中国株 Market Pick Up 今週の注目ポイント](#)
- [その他] [J.P.Morgan \(J.P.モルガン\) 社の、「マクロ経済レポート ウィクリー・データ・ウォッチ」「グローバル・データ・ウォッチ」\(ログイン後限定レポート\)](#)

## グローバル・マクロ・ビュー（世界経済の基本観）

### 1. 日本（赤字は前回からの変更点）

内閣改造後の経済対策および、消費税再引き上げ決定に向けた秋～冬の景気に要注目。

### 2. 米国（前回からの変更なし）

景気回復鮮明に。QE は秋に終了、来年の利上げ時期が焦点に。

### 3. 欧州（赤字は前回からの変更点）

ECB は追加金融緩和を実施。ソブリンQE に踏み切る観測も台頭。次回(10/2)の理事会に注目。

### 4. 新興国（前回からの変更なし）

最悪期は脱しつつある。政治の安定化など好材料も。

「広木部長、もうわたし『世界経済まる解り』まとめるの無理です！」

「どういう意味だ!？」

「わたし、彼のことで、作業できないんです!たぶん、これは運命なんです!」

「えー!じゃあ彼のサインを貰ってきてくれたら、来週からは私がやりましょう!」

「それは無理です!彼と話す時間を部長のために1ミリもあげたくないです(笑)」

「じゃあ今度からこのレポートと『ストラテジー・レポート』も書いてもらうからな!!」

「えーっ!!」



#### 利益相反に関する開示事項

マネックス証券株式会社は、契約に基づき、オリジナルレポートの提供を継続的に行うことに対する対価を契約先証券会社より包括的に得ておりますが、本レポートに対して個別に対価を得ているものではありません。レポート対象企業の選定はマネックス証券が独自の判断に基づき行っているものであり、契約先証券会社を含む第三者からの指定は一切受けておりません。レポート執筆者、並びにマネックス証券と本レポートの対象会社との間には、利益相反の関係はありません。

- ・当社は、本レポートの内容につき、その正確性や完全性について意見を表明し、また保証するものではありません。
- ・記載した情報、予想および判断は有価証券の購入、売却、デリバティブ取引、その他の取引を推奨し、勧誘するものではありません。
- ・過去の実績や予想・意見は、将来の結果を保証するものではありません。
- ・提供する情報等は作成時現在のものであり、今後予告なしに変更又は削除されることがございます。
- ・当社は本レポートの内容に依拠してお客様が取った行動の結果に対し責任を負うものではありません。
- ・投資にかかる最終決定は、お客様ご自身の判断と責任でなさるようお願いいたします。
- ・本レポートの内容に関する一切の権利は当社にありますので、当社の事前の書面による了解なしに転用・複製・配布することはできません。

マネックス証券株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第165号  
加入協会: 日本証券業協会、一般社団法人 金融先物取引業協会、  
一般社団法人 日本投資顧問業協会